

秋まき小麦の起生期～幼穂形成期追肥について

1 秋まき小麦の越冬状況の見込みと対策

令和2年産小麦の越冬前の生育は、秋は平年並みの気温だったものの、は種作業が平年より早かったため、目標茎数の900本/m²を超えたほ場が多いと考えられます(表1)。

起生期茎数は、越冬前のほぼ5割増しになるので、1,500本/m²を超えるほ場も出てくるのが予想されます。

「ゆめちから」の生育もほぼ同様と考えられますので、多くのほ場で起生期茎数が多い見込みです。

また、本年は積雪量が多いため、融雪水が滞水する場所では排水対策(溝切り)を行い、早期にほ場を乾燥させるようにしましょう。凍上による根の浮上がりが見られる場合には、ほ場に入れる状況になり次第、鎮圧ローラーを掛けましょう。

表1 令和2年産秋まき小麦の越冬前生育状況(きたほなみ)

| | 帯広市 | | 芽室町 | | 中札内村 | | 更別村 | |
|-----|-----------|---------------------------|-----------|---------------------------|-----------|---------------------------|-----------|---------------------------|
| | 葉数 (枚) | 茎数 (本/m ²) | 葉数 (枚) | 茎数 (本/m ²) | 葉数 (枚) | 茎数 (本/m ²) | 葉数 (枚) | 茎数 (本/m ²) |
| 越冬前 | 5.4 | 1,050 | 5.8 | 1,264 | 5.4 | 993 | 5.3 | 983 |
| 平年値 | 4.7 | 640 | 5.1 | 977 | 4.8 | 848 | 5.0 | 801 |

2 秋まき小麦の起生期～幼形期追肥の考え方

～ 適正穂数にターゲットを合わせた管理 ～

「きたほなみ」では、起生期茎数が1,000本/m²以上の場合、追肥なし(地力が低いほ場の場合は窒素量で2kg/10aを追肥)との指針があります。

また「ゆめちから」でも極端な茎数過多では倒伏の発生が懸念されることから、追肥量を抑えましょう。

表2を参考に、葉色よりも茎数管理に重点を置いた追肥管理を行いましょう！判断が難しい場合には、普及センターまでお問い合わせください。

表2 時期別追肥量の目安(窒素量換算)

| | | 起生期追肥量(Nkg/10a) | 幼穂形成期追肥量(Nkg/10a) |
|-----------------|--------------------------|----------------------------------|----------------------------|
| きたほなみの 起生期茎数 | 1,000本/m ² 未満 | 2～4 | 2～4 |
| | 1,000本/m ² 以上 | 0～2 | 4～6 |
| ゆめちから | | 2～4 | 2～4 |
| 追肥時期の目安 | | 追肥を行う場合でも、4月下旬以降であれば茎数が増えにくくなります | 茎数の増加を軽減するため、連休明けを目安にしましょう |

体調管理に気をつけ、農作業事故を防ぎましょう！